

第7回 世界中に日本光電製品を届けたい —コロナ禍の過去最高業績を支えた物流拠点—

日本光電では、2019年11月、国内にある物流センター2カ所を統合し、新たに東日本物流センターを埼玉県坂戸市に設立・稼働開始しました。高成長を目指す海外での需要拡大に対応するため、業務生産性の向上と世界各国へのタイムリーな製品供給に取り組む物流拠点の社員をご紹介します。



東日本物流センター
(埼玉県坂戸市)

コロナ禍の物流現場

— 日本光電製品を待っていてくださる世界中のお客様のために —

コロナ禍で生体情報モニターや人工呼吸器の需要が急増する中、東日本物流センターには毎日何十台もの大型トラックが行き来しました。私を含むチーム全員が、世界中の患者さん、医療従事者が必要とする医療機器を1日も早く届けたいという想いで、一丸となって対応しました。物流を止めないために、空間の除菌やマスク・手袋の常時着用などの感染予防対策を徹底して稼働を継続するとともに、運送会社様にも多大なご協力をいただきました。巣ごもり需要もあり世界中の輸送量が増加する中、コロナ患者さんを助けるための医療機器だからと優先対応いただき、心から感謝しています。



業務統括部 物流センター
物流課 課長
志村 美和子

🕒 志村 美和子の1日のスケジュール

7:00	出社、出荷の状況確認	17:00	翌日の入出荷予定の最終確認、退社
8:30	入荷、国内向け出荷対応、海外向け出荷対応、改善活動		

「物流」を日本光電の強みとするために

— 業務生産性向上、海外向け出荷リードタイム短縮の取り組み —

また、コロナ禍における短期間での需要・物流量の急増に対応し、第70期の過去最高業績へとつなげることができたのは、かねてからチームで推進してきた、各工程(入庫-ピッキング-検品-出荷)の見える化、デジタル化、自動化など、業務生産性向上に向けた地道な取り組み一つひとつの成果と考えています。稼働開始時と比較すると、現在は、同等の人員数・稼働時間で2倍の物流量への対応を実現しました。

引き続き、より高度な物流システムを有する拠点となるよう改革・挑戦を続け、特に、海外向けの製品・消耗品の出荷リードタイム短縮を目指します。加えて、サステナビリティの推進とコスト削減に向けて、段ボールや緩衝材など梱包材料の最適化にも取り組みます。



個人株主・投資家様向け オンライン会社説明会を開催予定

日本光電の強みや成長戦略、具体的な取り組みの説明に加え、皆様にとって身近な製品であるAEDの使い方の実演などを行う予定です。

開催予定 ※やむを得ず変更が生じる場合があります

■ 2022年1月～2月 SMBC日興証券 日興Web IR Dayに会社案内動画を掲載予定
説明者：経営戦略統括部長 吉澤 慶一郎

詳細が決まり次第、**当社ウェブサイト**でご案内します。
<https://www.nihonkohden.co.jp/ir/investor/index.html>

